

多彩な科目から、 学問の多様性を知る。



双方向遠隔授業システムでは、学生との質疑応答や議論も可能。池田准教授は「教員と学生との双方向だけではなく、本学の学生と他大学生が双方向で活発に交流できれば、北大学生の刺激にもなるのではないか」と、今後の展開に期待を込める。電子黒板は、教員だけではなく、他大学の学生も書き込むことができ、各大学の画面に表示される。



高等教育推進機構の池田文人准教授が担当する「人間と文化 交流分析で読み解くムーミン谷の秘密」の授業。本学から64名、他大学から14名の学生が受講しており、共に心理学を学ぶ。

特集
広がり、
拡がる、
そして育てる。
Stage 2 キャンパス

双方向遠隔授業

学び の共有。

2014年度後期、道内の国立大学が連携し、
教養教育の充実を目指して
「双方向遠隔授業」を開始した。
テレビ会議システムなどを使用し、
教養科目の一部を共同で
実施する取り組みである。
本格的なスタートとなる2015年度には、
本学は64科目を提供する予定だ。

グローバル化の進展により、
世界に横たわる問題はますます
複雑化し、社会からは多様な知識・
スキルを持った人材が求められて
いる。一方、大学では豊かな
人間性を育む「教養教育」の
重要性が見直されている。
札幌農学校時代から「全人教育」
として教養教育を重視して
きた本学は、昨年2月、道内の
国立大学（北海道教育大学、室蘭
工業大学、小樽商科大学、帯広
畜産大学、旭川医科大学、北見
工業大学）と、学士課程の教養

安全工学などの12科目が提供
された。各大学の連携により、
教養教育担当教員の確保が難しい
単科大学や小規模大学において
も、多彩な教養科目を開講する
ことが可能となったのだ。
学生は、他大学から提供される
単位互換科目を履修し、所属
大学の単位として修得。距離や
大学の枠を超え、多様な学習機会
を獲得することになった。

機器の操作は、各大学とも
T A (Teaching Assistant)
らによって行われる。本学では
開始前に、T Aなどを対象にし
た研修会を重ねた。授業の質を
担保するため、多くの科目では
授業の進行を支援するT Aを
さらに1名加え、2名体制と
している。
実際に受講した学生の間から
は、「配信元の先生が意見を
求めてきたり、他大学の学生の
意見も聞けたりと、普段の授業に
ない体験ができる」、「授業は
ディスカッションが多く、良い
意味で緊張感がある」などの声
が届いており、学生に良い影響
を与えている。

授業が「つながり」キャンパス
双方向遠隔授業は、本学と各
大学をネットワーク回線で接続
し実施する。本学では、8つの
教室にテレビ会議システム、電子
黒板、教室内を撮影するカメラ
などを設置した。テレビ会議シス
テムは、配信側・受信側の学生
間のディスカッションやグルー
プワークを可能にし、電子黒板で
双方の書き込みを共有できる。
「モニタに先生や学生が大きく
映し出されると、授業の臨場感
が増し、離れているという感覚
も薄まるようです」と、北海道
地区国立大学連携教育機構副機
構長的小林幸徳教授は、教室の
様子を語る。
「双方向遠隔授業では、各大学
の特色ある授業を受けることが
できます。従来の対面授業と
ともに積極的に受講し、幅広い
見識を身につけ学問の多様性を
知ってほしいですね」と、小林
教授は学生に期待する。
学びの場を広げた双方向遠隔
授業は、新たな学び方の多様化
につながる。協定を締結している
大学間でのプログラムのブラッシュ
アップ、情報通信技術などの発達
に伴い、さらに進化していく。